

# 茨木市立畑田小学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和5年10月作成

## 【今年度の結果と取組みについて】

### 〇●国語●〇

#### (領域ごと)

- |                  |             |
|------------------|-------------|
| ①言葉の特徴や使い方に関する事項 | 概ね良好な結果であった |
| ②情報の扱い方に関する事項    | 概ね良好な結果であった |
| ③話すこと・聞くこと       | 概ね良好な結果であった |
| ④書くこと            | 概ね良好な結果であった |
| ⑤読むこと            | 概ね良好な結果であった |

#### (問題形式)

- |      |             |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

#### (無解答率)

概ね良好な結果であった

#### (その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問は、1三(2)イで正しい送り仮名を選ぶ問題であった。
- ・もっとも正答率の低かった設問は、1二で3つの条件を満たして自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書く問題であった。
- ・もっとも全国との正答率の差が大きく本校の数値が高かった設問は1四で文章の種類とその特徴の説明として適切なものを選択する問題であった。
- ・もっとも無解答率の高かった設問は、3二で目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめて書く問題であった。

#### 分析

- ・全体的に無解答率が低かったが、自分の考えを書く問題の無解答率は全国や大阪府よりも高い傾向にあった。
- ・「書く」領域の問題で記述の量が増えると、正答率が下がっている。また、解答に3つ以上条件が必要な問題では、条件の2つは満たしているがすべての条件を満たしていないために誤答となってしまっている児童が多くいる。今後、授業の中で意識して条件付き作文を書いたり、解答にいくつかの条件が必要な問いの工夫をしたりして、解答に複数の条件を満たすような問題にも対応できるような力をつけていきたい。

## 〇●算数●〇

### (領域ごと)

- |         |             |
|---------|-------------|
| ①数と計算   | 概ね良好な結果であった |
| ②図形     | 概ね良好な結果であった |
| ③変化と関係  | 概ね良好な結果であった |
| ④データの活用 | 良好な結果であった   |

### (問題形式)

- |      |             |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率) 概ね良好な結果であった

### (その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問は、1 (1) で伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、求めることができるかどうかをみる問題であった。
- ・もっとも正答率の低かった設問は、2 (3) で正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題であった。
- ・もっとも無解答率の高かった設問は、4 (3) で示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題であった。

### 分析

- ・正答率において全領域で全国平均を上回っている。特に「データの活用」領域では大阪府や全国の平均を大きく上回っている。
- ・全体的に無解答率が低かったが、記述式の問題の無解答率は全国や大阪府の平均よりも高い傾向にあった。また、正答率も記述式の問題は低い傾向にある。授業の中で自分の考えを書いたりまとめたり、文章として表現する活動を多く取り入れていきたい。
- ・領域別にみると、「図形」の領域で正答率が低い。特に三角形の問題で正答率が低くなっている。「図形」の領域での苦手意識を克服するためにも ICT も有効に活用しながら授業を行っていきたい。

## ○●経年比較●○

### 全体的な傾向についての分析

- ・ほぼすべての領域、問題形式において、正答率は全国平均を上回り、無解答率は下回っているが、国語の「書くこと」の領域や算数でも記述式の問題で課題が見られる。
- ・近似曲線で見ると、平均正答率が上昇傾向にある。また、学力高位層は上昇傾向、学力低位層は減少傾向にある。

### 学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

- ・学力低位層（正答率0～40%）エンパワー層（正答率0～20%）の割合は減少傾向にある。基礎学力の定着のために取り組んでいる、ことばあつめなどの語彙力を身につけるための取り組みや「算数あたま」など、基礎計算力向上の成果が表れていると考えられる。

## ○●取り組み●○

### 学力向上に関する取り組み

#### 1 基礎学力の定着

- ① ことばあつめなどの実施。語彙力を身につける取り組みを行う。
- ② 算数の授業の最初に「算数あたま」という簡単な計算問題や単元に合った計算問題を行うことによって、基礎的な計算力や、図形の把握能力などを育ててきた。
- ③ 「ビジョントレーニング」という、ピンポン落としゲームを取り入れ、目で追いかけていく取り組みを行っている。対象を目でとらえ、それが何かを判断し、判断に沿った行動をとる経緯の中で、集中力等を高める。
- ④ タブレットを活用しドリルパークを定期的に配信し、「できる」体験を積み重ねていけるよう取り組んでいる。
- ⑤ 学力低位層には、個別に声かけを行い、休み時間などに一緒に学習する機会を設け、支援している。また、日ごろから努力や個々の頑張りをほめるなど声かけを行い、「できる」体感を積み重ねていけるよう取り組んでいる。

#### 2 言語活動の充実

- ① タブレットを活用しオクリンクやムーブノート等を使うことで、全員が表現することができる場をつくる。
- ② 並行読書や読書ノートを取り入れることで、本への興味が深まった。
- ③ 国語では、毎単元で学習計画や、取り組む言語活動を児童に提示することで、見通しを持たせ、意欲を高めるようにしている。

#### 3 授業方法・内容の工夫と改善

- ① 指導と評価の一体化を意識した授業改善を行い、授業のめあてを明確にすることで、児童へのフィードバックを大切に、学習や授業の改善に生かしている。
- ② 今年度、算数では、4年生と5年生で分割授業・習熟度別授業を行い、一人ひとりのがんばりや成長、つまづきを把握し、きめ細かな指導に生かしている。

#### 4 学校全体としての取り組み

- ① 学習課題を単元の始めに提示し、児童が見通しをもって、言語活動に取り組むことができるようにしている。